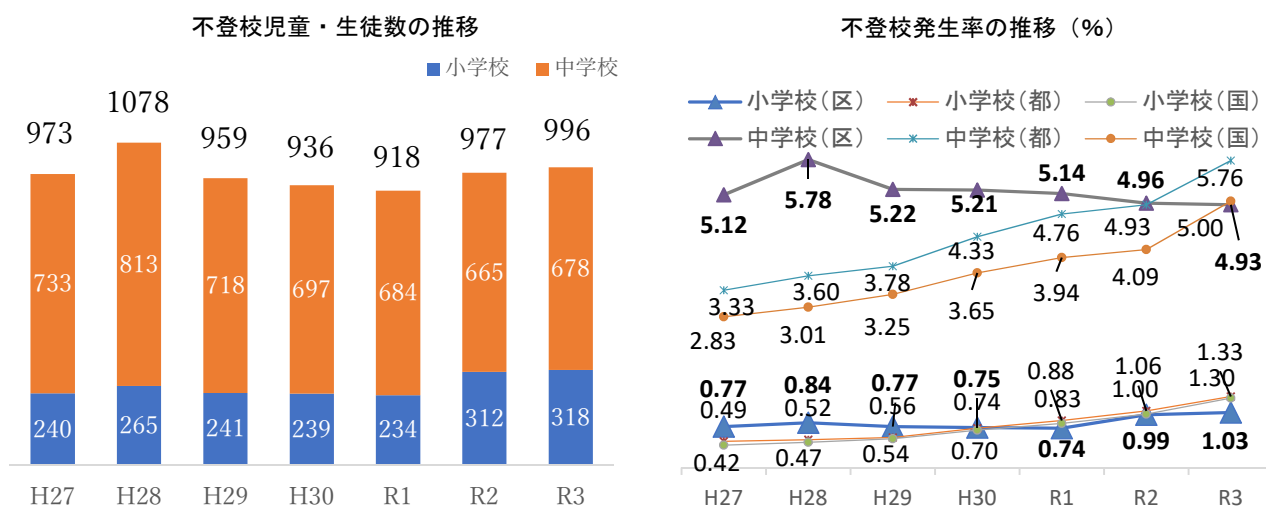


## 足立区と私立不登校特例校との連携方針（案）

### 1 足立区の不登校生徒の現状と施策

#### (1) 不登校児童・生徒数と発生率

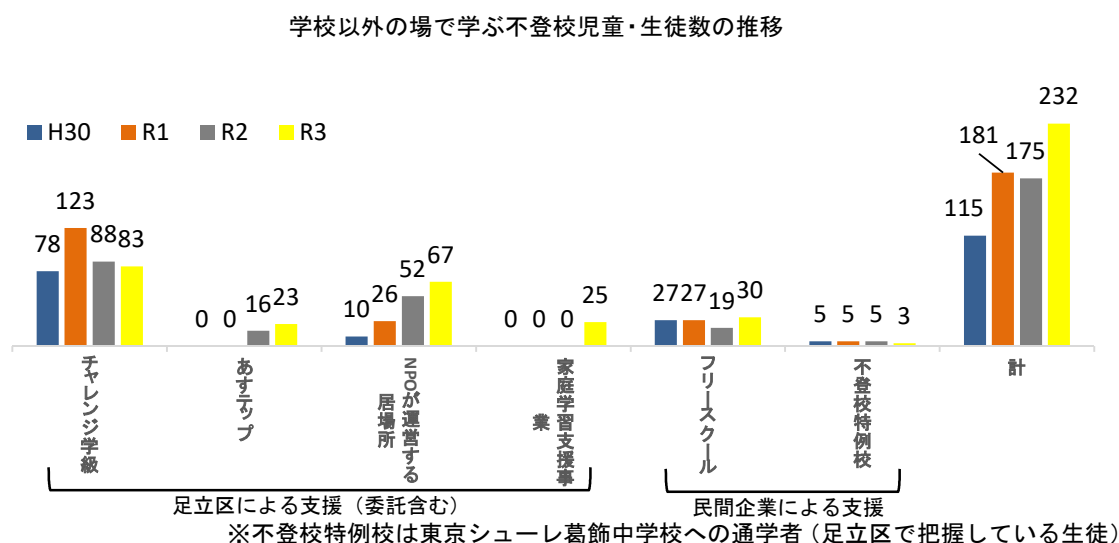
全国的に不登校者が増加（令和3年度は過去最多）する中、足立区は、平成28年度をピークに減少したものの令和2年度から増加傾向にある。一方、不登校発生率は、学校やスクールソーシャルワーカーのアウトリーチ支援や登校サポーターのお迎え等支援施策の充実により、東京都の発生率を下回った。



#### (2) 学校以外で学習する不登校児童・生徒

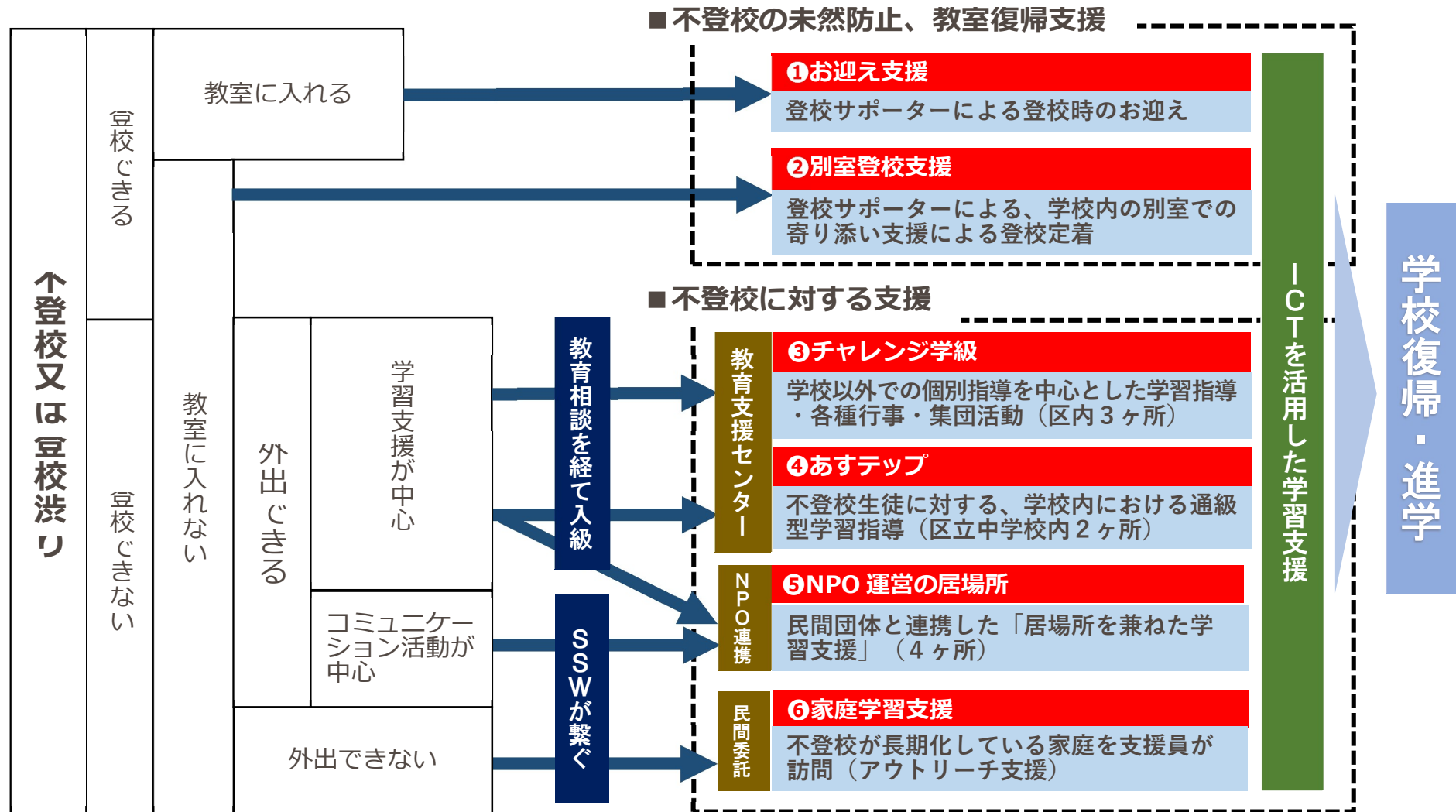
学校以外で学ぶ不登校児童・生徒数はここ数年一貫して増加している。また、あすテップやNPOが運営する居場所など、個々の状況に応じた居場所の選択肢が増加したことで、従来からあるチャレンジ学級から一定数が移行している。

また、足立区から葛飾区の東京シューレ葛飾中学校（不登校特例校）に通学している生徒も令和4年度は5名確認している。



(3) 足立区の不登校施策

登校渋りの状況から外出困難な不登校の段階まで、状況に応じた支援策を展開している。



## 2 足立区の不登校施策の課題と不登校特例校との連携の必要性

(課題1) 不登校児童・生徒の学校以外の場における学習支援のニーズが多様化しているため、民間団体による多様な支援方法を知る必要が生じている。

### 連携案と期待できる効果

#### 【連携案】

- 1 不登校特例校での支援方法を教育支援センターや学校での支援に活かすための相互交流
- 2 不登校児童・生徒への支援の在り方の啓発や定期的な保護者向けイベント等の開催
- 3 東京未来大学と連携した不登校に関する共同研究

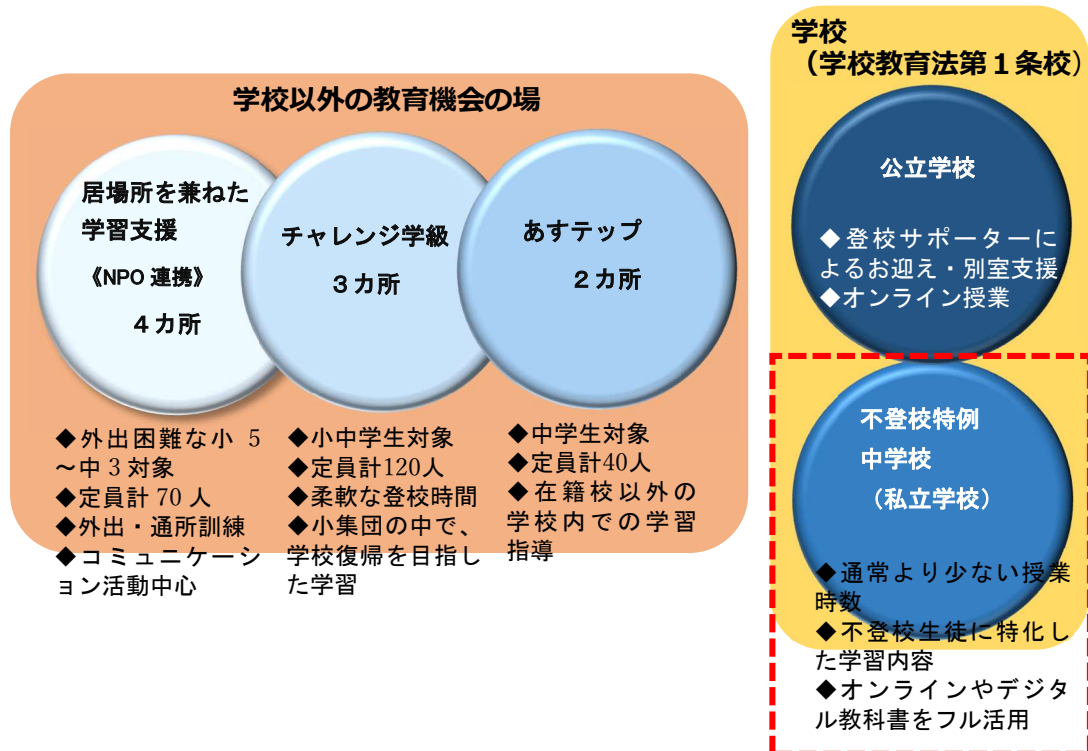
#### 【効果】

- 1 不登校特例校の支援ノウハウを、足立区の不登校施策に活用できる。
- 2 保護者や生徒への教育相談等に対して、新たな進路選択肢を提示できるため、選択の幅が増え保護者の安心感に繋がる。

### 【参考】 不登校特例校の位置づけ

居場所機能重視 (集団生活に慣れる)

学習活動重視 (学校に近い環境)



(課題2) 校内オンライン授業が開始されたが、不登校児童・生徒に特化したものではない。別室登校している生徒や自宅にいる生徒に対応する授業方法が確立されていない。

#### 連携案と期待できる効果

##### 【連携案】

- 1 オンライン授業での連携  
区の教員が私立学校の授業を見学、教育支援センター指導員への研修等
- 2 ICT活用の実践例や好事例の情報共有
- 3 進路指導・キャリア教育での連携

##### 【効果】

- 1 不登校生徒に応じた実践的な指導方法の獲得  
教員が、特例校との授業交流により不登校生徒に特化したオンライン授業方法を習得できる。これを学校等での学習支援に活用できる。
- 2 キャリア教育の相互連携（夢デザインシートのICT化）  
不登校特例校ではキャリア教育を重視している。区のキャリアパスポート（夢デザインシート）をICTにより活用し、実践していくとのこと。区へもICTを活用したキャリアパスポートの取り組みについて、情報提供をしてもらう。

(課題3) フリースクール等、民間支援団体との連携は進んでいるが、個別対応にとどまり定期的な情報交換の場がない。

#### 連携案と期待できる効果

##### 【連携案】

- 1 区内フリースクール（※）との連携のための連絡会の開催
- 2 通信制高校の体験・見学、情報共有等（中学・高校の教員へ周知する）

##### 【効果】

- 1 不登校支援連絡会（仮称）の開催による官民連携体制の構築  
不登校特例校との連携を契機に、足立区で活動しているフリースクール等の民間団体と行政の連携を強化する。具体的には、不登校支援連絡会（仮称）を開催し、民間団体と学校を含めた不登校生徒の支援体制を構築する。
- 2 若年者支援における相互連携  
不登校特例校の別棟では、通信制高校も設置されるため、区の若年者支援協議会で区立中学側と通信制高校の選定基準や特徴を相互共有することで、進路選択のミスマッチを防止できる。
- 3 不登校特例校との連携を契機に、三幸学園がもつ通信制高校や専門学校との連携（不登校生徒の専門学校の体験授業等）が推進できる。

※ 不登校の児童・生徒に対し、学習活動、教育相談、体験などの活動を行っている民間の施設。区内では、綾瀬にある三幸学園が運営するみらいフリースクール等がある。

### 3 三幸学園が開設する私立不登校特例校の主な特徴（三幸学園の申請中資料より）

#### (1) 独自のカリキュラム

不登校生徒が苦手とする傾向がある英語等では、モチベーションや集中力保持のため、毎日短時間で学習する時間割を組む。またソーシャルスキルトレーニング、個別学習計画の作成、学習定着度に応じた遡り学習、国際交流などを実施する。

#### (2) ICTの活用

デジタル教科書と副教材を中心に授業を展開する。また、学習の場を問わないオンライン指導も充実させる。

#### (3) 不登校生徒に関する配慮

学校に来られない生徒のために、自宅や別室でも通学と同様の学習ができる環境を整備。最終的に全員が登校できる状態にする。

#### (4) 楽しみながらの学習を創出

学校が生徒にとっての居場所となる空間になるよう生徒と教職員で一緒につくる。